

STAGE+を楽しむ(28)(HP 収載)  
—ガーディナーのミサ曲口短調—

1. 始めに

前報(27)に引き続き、STAGE+の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ガーディナーのバッハのミサ曲口短調の演奏を選びました。今回から日本語のサポートもあり、再生経路にはこれまでの仮想アース、MRF-005T に加えてスピーカーアキュライザーや LAN iSilencer も加わっています。

作品の概要と演奏者は次のとおりです。

ガーディナーが得意とするバッハの《ミサ曲口短調》を指揮  
シャペル・ロワイヤル

1. 再配信 2023 年 4 月 16 日 9:00

2. 再配信 2023 年 4 月 16 日 19:00

本映像に収められた公演は、バッハ演奏の第一人者であるジョン・エリオット・ガーディナーがモンテヴェルディ合唱団とイングリッシュ・バロック・ソロイストと共に行った 2023 年春のツアーの一つです。楽曲は彼らにとって大切なレパートリーであるバッハの《ミサ曲口短調》です。キャリアの初期から演奏している作品であり、緻密かつスケールの大きな演奏が繰り広げられます。演奏はヴェルサイユ宮殿のシャペル・ロワイヤルで行われ、圧倒的な演奏を歴史ある荘厳な礼拝堂の雰囲気彩っています。

ソリスト:

ジョージ・ヴァインズ (バス)、ヒラリー・クローニン (ソプラノ)、サラ・デンビー (メゾソプラノ)、ジョナサン・ハンリー (テノール)、ニック・プリチャード (テノール)、ベサニー・ホラック・ハレット (メゾソプラノ)、レジナルド・モブリー (カウンターテノール)、ディングル・ヤンデル (テノール)

アンサンブル:

イングリッシュ・バロック・ソロイスト、モンテヴェルディ合唱団

指揮:

ジョン・エリオット・ガーディナー

ヨハン・セバスティアン・バッハ ミサ曲口短調 BWV 232



### 3. 試聴の経過



9:00 からの再配信を最初の 1 時間ほど聴きましたが、比較的安定していました。ミサ曲ロ短調は、カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団の CD、ヘルベルト・ブ롬シュテット指揮ゲヴァントハウスの放送録画、ゲオルグ・クリストフ・ピラー指揮ゲヴァントハウスの DVD などの手持ちがあります。

ガーディナーは、それらとは違った円熟した温かみのある演奏です。収録場所のシャペル・ロワイヤルというのは、フランスの古い由緒ある教会のようで、イングリッシュ・バロック・ソロイストの演奏とモンテヴェルディ合唱団の合唱ともよく馴染んでいます。

全般的にスピーカーアキュライザーや LAN iSilence の効果も加わって、スケールの大きなこの曲の細部にいたるまで緻密な表現が聴き取れました。

さらに、アーカイブを聴き直したり、上記に記した他の音源との聴き比べも実施しました。

### 4. まとめ

STAGE+配信のガーディナーによるバッハのロ短調ミサ曲は、温かみのある演奏でした。これまでの仮想アース、MRF-005T に加えてスピーカーアキュライザーや LAN iSilencer の効果も確認できました。

以上